

# おしアレコレ



さて、今月号は「めし」特集である。

人はその死に方で生き方がわかるものという。

人がどうやってメシ代をかせぎ何を食っているか、釜ではとくにどうか——

それは、食ったメシのいきつくところ、つまり、一般に

ウンコとかクソとかよばれて

いるもの、にあらわれるのではないだろうか。

そう考えて、さうぞくいつものように、センター一階の便所へ行くことにした。

あの「さんかくし」のない毎度おなじみの便所だ。喫茶店のきらびやかな便所——それはしほしほなまめかしく感じることにさえある!!——どちがい、実質本位でなかなかよろしい。「さんかくし」がないので、さうち向いてしゃがもうと自由であるようなところもいい。紙がなくてあわてるとび込んで、何か紙があることも、つけたせば、いいことだ。それは、新聞がみであつたり、予想紙「馬」とか

であつたりして、痔になりさおというところもあるけれど……

さて、話を戻そう。マン性的かつ日常的に、下痢状態であるところの労働者諸君が多いようなのだ。チョッピリ涼しくなつたとはいえ夏であることも一つの原因だろう。焼酎死なないために(?)青空の下での労働では水ほつかり飲むからだ。

でも、食わずに勘方したりすると力が入らず、思わずツルを定先にふりおろしそうになつたりするので、やはり食つて行く。食つて下痢してまた食つて……でも食べるうちはまだよくて、そのうち「米も米のシルもかわりはない」なんていいながら酒だけ飲むことになつたりする。しかし——だ。

## おしはオレたちの楽しみ

なのだ。よく「衣食住」というけれど、「衣」なんて丈夫な仕事着があればいいし、「住」も、みんなオレみたいな親不孝のふうてんみたいなものなので、どこでもいいのだ。暑ければ公園でもいいし、まして市民社会でいう「マイホーム」なんてクソくらえだ。でも「食」はちがう。正しくは「飲」を含む「食」っていうことかな。

「衣」や「住」だと、自分の所有物にしてしまつと、盗まれないように守らなアカンし、ためたりするのめんどろだものね。

「食」なら、一時的にしろかせげはイイもの食えるし、一日かきりで出てしまつたら復讐でよろしい。もっともオケラのとときには苦しくつらいもんだだけ。

カー、反タチに会つても酒おこつてくれ」とは言いやすいが「メシ食わしてくれ」とは、よほど親しくても言いにくい。逆に「一杯のモウ」とは言えても「メシ食おう」とはあんまり誘つてりしないものだろう。

話かわるけど、オレの反打ちでもいろんなヤツがいるんだよ。即席ラーメンは、かり一カ月食つてたヤ、すし半ですきやき三人分たいちけまだほかに食つたというH、かと

思うと、水だけのんでトヤでねてた(二重向)なんていう、スサマジクも、ニガイ話もある。みんな淋しいんだよネ。「あつたかい家庭の味」なんてカンケイないもの。飯場でアネサンに、にきりめし屋のネエちゃんに、口にごぞ出さぬが、ふと、イイナアなんて、「おもい」をよせたりするんだな。

でも、サスちゃんのうたで、たかな、あるじゃないか。父親の血をみく兄弟よりも固いちぎりの義兄弟、つて。血はちがつていても、仕事仲間、同じ釜のメシ食つた仲間を大切にしたいよね。釜ヶ崎大家族つてどこかな。善理も人情もトヤもあるんせよ。そして、今日もメシを食つてクソしてゐるのだ。(H)